

市交際費の支出状況

令和2年2月分

支出種別	区分	件数	金額(円)
弔慰	今月分	5	30,000
	累計	48	178,500
見舞い	今月分	0	0
	累計	5	58,067
御祝	今月分	2	13,700
	累計	36	197,850
賛助	今月分	0	0
	累計	2	9,000
激励金	今月分	0	0
	累計	0	0
接遇	今月分	1	1,680
	累計	28	160,107
会費	今月分	5	16,000
	累計	38	134,000
その他	今月分	0	0
	累計	2	7,200
合計	今月分	13	61,380
	累計	159	744,724

※くわしくは市のホームページに掲載しています

問い合わせ 総務課 秘書係
☎75-2115

市長コラム

「先人の功績に学ぶ」

先日、東京に行く機会があり、「滝乃川学園」を訪問してきました。学園内には、昭和初期の教育建造物の「石井亮一・筆子記念館」があります。佐賀市出身の石井さんは、濃尾大地震で震災孤児となつた子どもたちの中に、誘拐され人身売買される女児がいることを知り、救済のため「孤女学院」を設立。この時、知的障害児に出会つた亮一さんは、彼女らにも等しく教育を受けさせる必要があると感じます。当時は、まだ障害児教育の専門的知識もない中で、研究を進めていきます。その

tomoniki

後、夫と死別した筆子さんが、知的障害のある娘さんを「滝乃川学園」に預けたことがきっかけで2人は結婚し、力を合わせて知的障害児の教育・福祉に取り組んでいました。障害児は、当時差別されることが多くある時代でしたが、夫妻の理念に共感した多くの人たちが支援を続けてくれました。先人の功績に触れ、改めて、夫妻の思いを知ることができました。学園から、夫妻の歩みをつづつた「滝乃川学園120年史」の書籍をいただきましたので、図書館に寄贈いたしました。一度、ご覧ください。差別をなくすためには、理解者を増やしていくことが大切だと、改めて感じる機会となりました。

社会教育指導員 木村博重

Message for citizen



市長コラム



3月13日夜、県内で初の新型コロナウイルス感染者が発生し、緊張が走り、多久市も対策本部を立ち上げました。感染者はフランスに渡航した20歳台の佐賀市の男性で、PCR検査陽性のため直ちに隔離入院。濃厚接触者など23人も自宅待機となり、検査で全員が陰性と判明。経過観察終了は26日です。

現時点での県内の感染者はこの1人です。ここは冷静に状況を理解し、手洗い・消毒などを徹底し、対応が不可欠です。皆様も連日の感染発生報道で心配が絶えないと思います。

そんな中に、政府の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議が3月19日に『状況分析と提言』を記者発表しました。

最も感染拡大リスクを高める環境として、①換気の悪い密閉空間、②人が密集している、③近距離での会話や発声が行われる、の3条件が同時に重なる

「密閉・密集・密接」を避ける

市長 横尾俊彦 3月25日 記

る場を指摘し、そこでの行動抑制が重要としています。

特に、感染に気付かぬ人々によるクラスター(患者集団)が断続的に発生し、大規模化や連鎖が生じ、オーバーシュート(爆発的患者急増)が始まっても、事前にその兆候を察知できず、「気付いたときは制御できなくなってしまうのが感染症対策の難しさ」なのです。

人と人との接触をできる限り絶つ努力や、3条件が同時に重なる場を避ける努力を続けられない場合は、既に複数の国での報告のように、「感染に気づかない人々たちによるクラスターが断続的に発生し、大規模化や連鎖が生じます。そしてある日、オーバーシュートが起こりかねない」と警告しています。

最大限の注意が必須です。手洗いや消毒の徹底と、「密閉・密集・密接」を避けて、皆でこの危機を乗り越えましょう。